

2007年能登半島地震に伴う大気圧変動

Atmospheric pressure change observed during the 2007 Noto Hanto earthquake

綿田 辰吾 [1]; 関口 涉次 [2]

Shingo Watada[1]; Shoji Sekiguchi[2]

[1] 東大・地震研; [2] 防災科研

[1] Earthquake Research Insititute, U. of Tokyo; [2] NIED

2007年能登半島地震時に防災科研広帯域地震観測点に併設された微気圧計でおよそ2、3パスカルの振幅を持つ微小な大気圧変動が観測された。それぞれの観測点で周期20秒以下の最大圧力変動は地震表面波の到来時と一致していた。圧力変動は地震の表面波の伝播速度、およそ毎秒3 - 4キロで伝播しており、大気中の音波速度より一桁速い。この特徴は大気圧変動は地動と表面波の動的音響結合により発生していることを示唆している。

地震震源域で発生し大気中を音速で伝播して微気圧計に到達する音波検出を試みている。